

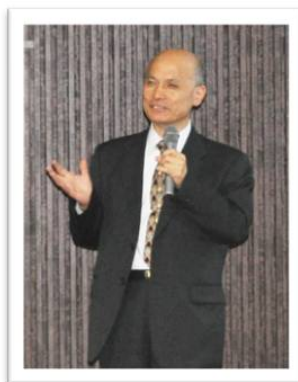
早稲田 嘉夫 先生

(東北大学多元物質科学研究所・名誉教授)

～東北放射光施設構想の概要～

佐竹 正延 (免疫遺伝子制御研究分野・教授)

「著者謹呈」のしおりが入った、「放射光科学入門」なる本の贈呈を受けたのは、2カ月ほど前のことです。発送人の御名前は記されておらず、ただし封筒の銘は多元物質科学研究所でありましたから、きっと今回のセミナーの講師、早稲田嘉夫博士からの贈り物であろうとは推測できました。本はB5版で375ページにも及ぶ本格的なもので、東北大学出版会より発行されております。奥付けには、2012年7月20日、改訂第2刷とありますから、それに合わせて私が頂戴したものと思われま



早稲田 嘉夫 先生

執筆陣は本学の多元研を中心に、金研・理学研究科に所属する31名に及びます。東北大学が我が国における物質科学の一大中心地であることを考えれば、執筆した研究者の方々が、物質構造解析の手段として放射光を利用していることは明らかです。ところが何と、本の「まえおき」第1ページによれば、放射光施設は東北地方以北には存在しないとあります。東北大学の研究者は、筑波や播磨に出かけて行って実験しているらしいのです。構造解析に威力を発揮する放射光施設なくして、しかもなお本学が物質科学の一大メッカであるとは、素人目には何とも不思議な状況です。

しかしながら東北大学の生命科学・医学の徒が真に驚くべきは、我等の研究対象であり、未来を開く鍵であると皆が考えている、“タンパク構造科学”の状況であります。比度の早稲田先生の講演を機会に、学内におけるタンパク構造解析の状況を少し調べてみました。それを専門とする研究室は、ほんの数例。専門とまではいかなくとも、構造解析の経験のある研究室にまで間口を拓けてみても、10に届きません。こうした本学の生命科学・医学領域の状況では、放射光施設建設どころの話ではありません。云々する資格すら無いと他人から断定されても、全く反論はできないでしょう。



私達、生命科学・医学の徒が、高分子(タンパク)構造解析の有用性や、それに直結する放射光の威力について、認識できない訳ではないと信じております。早稲田博士の講演は、東北地方に放射光施設を建設すべしとの、構想の紹介でありました。星陵地区の研究者の方々にも是非、知っておいて欲しい、賛同していただきたいと願っております。



佐竹正延先生

